2026. 10. 30

【鉱工業生産（26 年 9 月）】

生産は 3 ヵ月ぶりのプラス、自動車が回復

～先行き、半導体関連の需要拡大が下支え～

経済調査部　主席研究員
藤田　敬史

ポイント

- **9 月の鉱工業生産指数（季調値）は前月比＋2.2%と、3 ヵ月ぶりのプラス。経産省は基調判断を「生産は一進一退」にすえ置いた**
- **令和 8 年熊本地震に伴う工場稼働停止の影響で落ち込んだ普通乗用車の回復などを受け自動車工業がプラスとなったほか、AI 関連需要の拡大を背景に半導体製造装置を含む生産用機械工業もプラス**
- **先行き、AI の普及やデータセンター投資の拡大を背景に半導体関連の需要拡大が続くとみられ、生産の下支えとなろう**

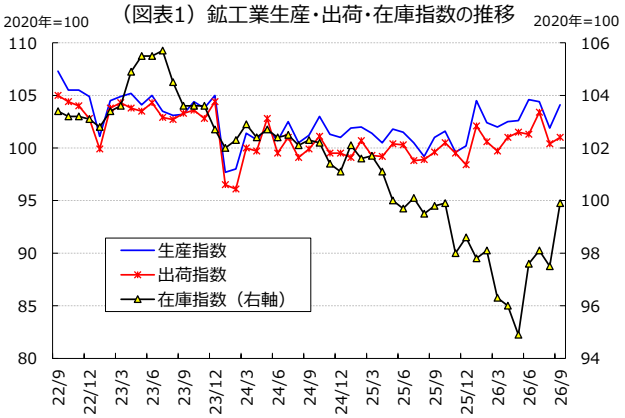
1．生産は 3 ヵ月ぶりのプラス

9 月の鉱工業生産指数（季調値）は前月比＋2.2%と、市場予想（同＋1.2%）を上回り、3 ヵ月ぶりのプラスとなった（図表 1）。経産省は基調判断を「生産は一進一退」にすえ置いた（図表 2）。

業種別の状況を見ると、主要 15 業種中 8 業種が前月比プラス、7 業種がマイナスとなった。プラス寄与となった業種の 1 位は自動車工業（前月比＋5.5%、寄与度＋0.69 ﾎﾟｲﾝﾄ）で、普通乗用車や駆動伝導・操縦装置部品がプラスに寄与した（図表 3）。令和 8 年熊本地震により 8 月は一部の工場で一時的に稼働停止となったが、再開に伴い生産を押し上げた。2 位は生産用機械工業（同＋3.4%、同＋0.36 ﾎﾟｲﾝﾄ）で、AI 関連需要の拡大を背景に半導体製造装置はプラス基調が続いている（図表 4）。3 位は汎用・業務用機械工業（同＋4.8%、同＋0.35 ﾎﾟｲﾝﾄ）であった。

一方、マイナス寄与となった業種の 1 位は、鉄鋼・非鉄金属工業（前月比▲1.6%、寄与度▲0.09 ﾎﾟｲﾝﾄ）で亜鉛めっき鋼板などがマイナスとなった。鉄鋼大手で千葉の製鉄所が台風による大雨に伴い設備が冠水したことなどが影響し

（図表1）鉱工業生産・出荷・在庫指数の推移



（出所）経産省「鉱工業指数」

（図表2）鉱工業生産の基調判断の推移

	基調判断	方向性
22年6月～7月	生産は一進一退	↑
22年8月～9月	生産は緩やかな持ち直しの動き	↑
22年10月	生産は緩やかに持ち直しているものの、一部に弱さがみられる	↓
22年11月～23年2月	生産は弱含み	↓
23年3月～6月	生産は緩やかな持ち直しの動き	↑
23年7月～12月	生産は一進一退	↓
24年1月～6月	生産は一進一退ながら弱含み	↓
24年7月～	生産は一進一退	↑

（出所）経産省「鉱工業指数」

た。2 位は窯業・土石製品工業（同▲1.9%、同▲0.06 ﾎﾟｲﾝﾄ）、3 位は化学工業（除．無機・有機化学工業・医薬品）（同▲1.0%、同▲0.05 ﾎﾟｲﾝﾄ）であった。

２．生産予測、10、11 月はともにプラス

製造工業生産予測指数は、10 月が前月比＋5.1%、11 月が同＋0.8%である（図表 5）。10 月は電子部品・デバイス工業（前月比＋16.6%、寄与度＋2.53 ﾎﾟｲﾝﾄ）、生産用機械工業（同＋15.5%、同＋2.21 ﾎﾟｲﾝﾄ）、電気・情報通信機械工業（同＋6.9%、同＋0.82 ﾎﾟｲﾝﾄ）などがプラス見込みである。11 月は、輸送機械工業（前月比＋4.3%、寄与度＋0.80 ﾎﾟｲﾝﾄ）、汎用・業務用機械工業（同＋4.8%、同＋0.36 ﾎﾟｲﾝﾄ）、鉄鋼・非鉄金属工業（同＋5.3%、同＋0.32 ﾎﾟｲﾝﾄ）などがプラス予測となっている。なお、計画値に含まれる上方バイアスを経産省が補正計算した 10 月の予測値は同＋3.9%である。

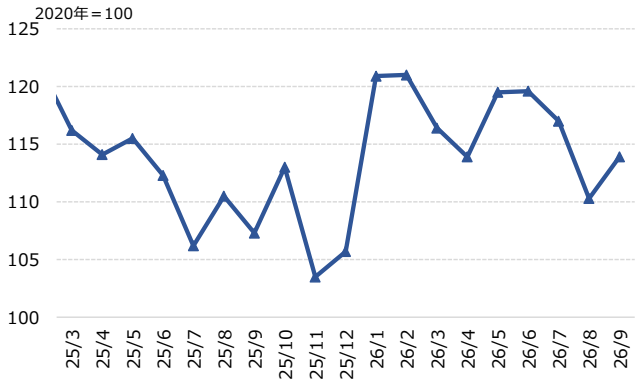
10－11 月 2 ヵ月平均でみると 9 月比＋5.9%で、主要 11 業種すべてでプラスの予測である。汎用・業務用機械工業（10－11 月 2 ヵ月平均で 9 月比＋17.0%）は、計測・分析機器や汎用機械器具部品などの品目が伸びるとの予測で、主要 11 業種中最も高い伸びである。そのほか、電子部品・デバイス工業（同＋14.6%）は集積回路や電子デバイス・電子部品がプラスの見通しで、生産用機械工業（同＋8.9%）は好調な半導体市場を背景に半導体・フラットパネルディスプレイ製造装置等の品目が伸びるとのことでプラス予測となっている。

企業の生産活動に対する強気か弱気の姿勢を示す生産活動マインド指標（DI）は原系列で▲5.5（前月▲5.6）と小幅に改善、DI トレンドは▲3.0（同▲2.2）と悪化した（図表 6）。DI トレンドは経産省が景気後退局面入りの可能性が高い目安とする▲5 を上回って推移しているが、足元では再び低下傾向にある。

３．先行きの生産、半導体関連の需要拡大が下支え

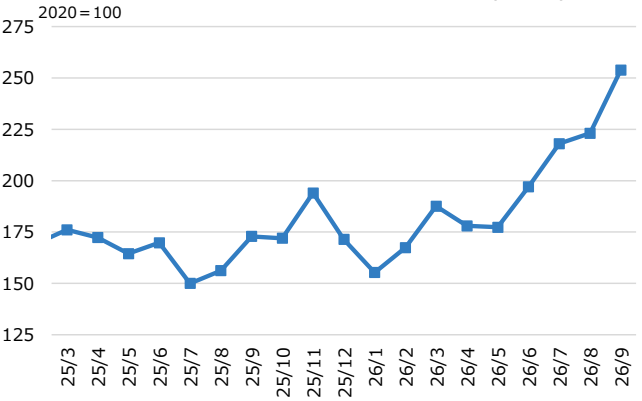
設備投資の一致指標の一つである 9 月の資本財出荷（除．輸送機械）は前月比▲0.9%で、8 月の同＋0.2%から 4 ヵ月ぶりのマイナスとなった。ブレが大きいため 3 ヵ月移動平均でみると同＋2.2%のプラスである（図表 7）。設備投資の先行指標では、8 月の機械受注（船舶・電力を除く民需）は前月比＋5.2%と、7 月の同▲3.7%

（図表3）普通乗用車の生産指数の推移（季調済）



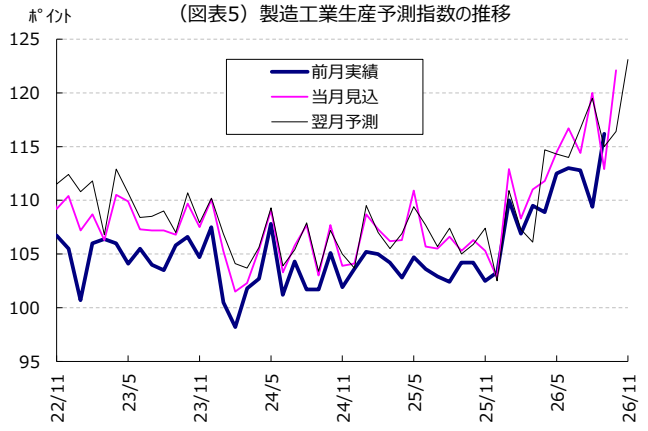
（出所）経産省「鉱工業指数」

（図表4）半導体製造装置の生産指数の推移(季調済)



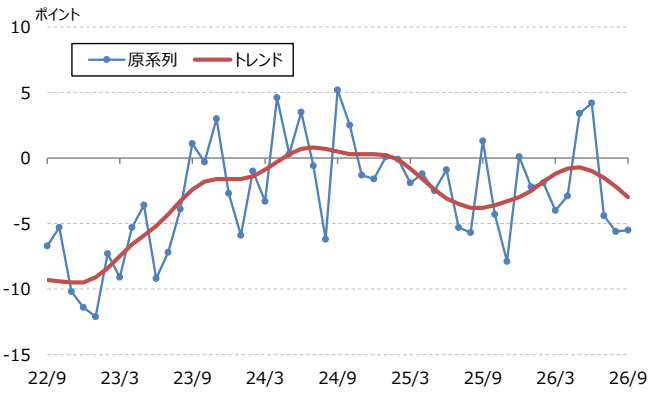
（出所）経産省「鉱工業生産指数」

（図表5）製造工業生産予測指数の推移



（出所）経産省「鉱工業指数」

（図表6）生産活動マインド指標（DI）

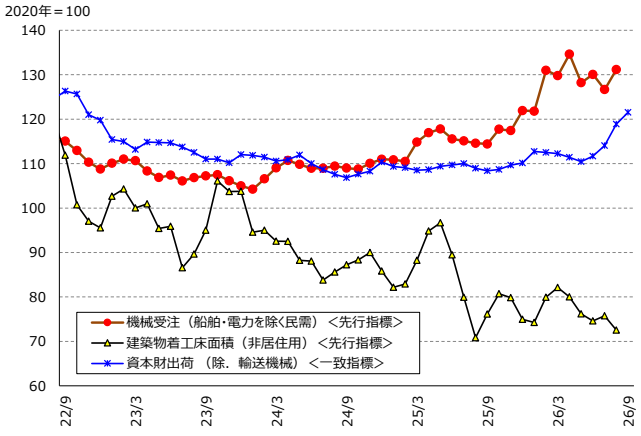


（出所）経産省「鉱工業指数」

から 2 ヵ月ぶりのプラスとなった（7－9 月期見通しは前期比＋4.9%と 4 四半期連続のプラス予測）。公表元の内閣府は、基調判断を「持ち直しの動きがみられる」にすえ置いている。建築物着工床面積は振れが大きいが、足元では横ばいで推移している。

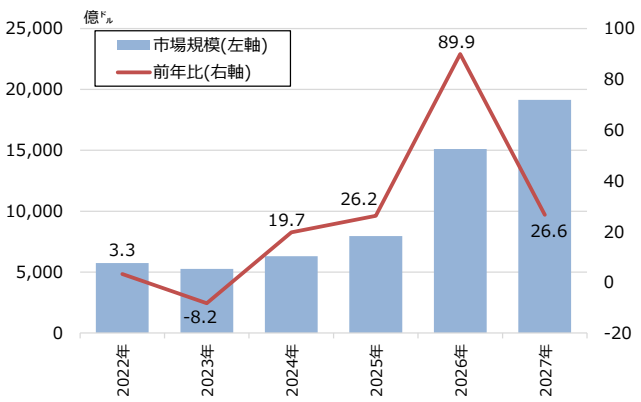
先行きについては、企業の生産活動マインドのトレンドが低下している点には注意が必要である。一方、WSTS（世界半導体市場統計）の半導体市場予測によると、2026 年は前年比＋89.9%、2027 年は同＋26.6%の高い伸びが見込まれている（図表 8）[1]。世界的な AI やデータセンター投資の拡大を背景に、半導体関連の需要拡大が続くとみられ、国内でも半導体製造装置や電子部品・デバイス関連が生産の下支えとなろう。

（図表7）設備投資、一致指標と先行指標の推移（3ヵ月移動平均）



（出所）内閣府「機械受注」、国交省「建築着工」、経産省「鉱工業出荷内訳表」

(図表8)半導体市場の推移(26,27年はWSTSの予想)



（出所）世界半導体市場統計（WSTS）

本レポートに関するご取材やお問い合わせは以下までご連絡ください
明治安田総合研究所 主席研究員 藤田 敬史
電話番号：080 2298 8272
e-mail：takafumi.fujita@myri.co.jp

※本レポートは、明治安田総合研究所が情報提供資料として作成したものであり、いかなる契約の締結や解約を目的としたものではありません。掲載内容について細心の注意を払っていますが、これによりその情報に関する信頼性、正確性、完全性などについて保証するものではありません。掲載された情報を用いた結果生じた直接的、間接的なトラブルや損失、損害については、一切の責任を負いません。またこれらの情報は、予告なく掲載を変更、中断、中止することがあります。
●発行元●株式会社明治安田総合研究所〒102-0073東京都千代田区九段北3－2－11TEL03-6261-6411

[1] 2026 年 6 月 2 日発表